

# 齋賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

## 検索ボックス



<< 2021年07月 >>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

## 最近の記事

- (07/16) [妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送](#) [妊娠女性におけるmRNAコロナワクチンの安全性 再放送](#)
- (07/15) [ファイザーのワクチンは3回接種が必要か？](#)
- (07/13) [RSウイルスについて: Respiratory syncytial virus](#)
- (07/12) [急性細気管支炎](#)
- (07/09) [中等症以上の喘息治療は3剤併用療法が有効？](#)

## 最近のコメント

- [中等症以上の喘息治療は3剤併用療法が有効？](#) by (07/11)
- [大腸ファイバー検査の適正な間隔は？](#) by (07/07)
- [自宅療養の新型コロナ軽症患者における長期症状](#) by (07/06)
- [ファイザーのワクチンによる心筋炎](#) by (07/06)
- [ファイザーのワクチンによる心筋炎](#) by (07/05)

## タグクラウド

## カテゴリ

- [小児科](#)(198)
- [循環器](#)(217)
- [消化器・PPI](#)(139)
- [感染症・衛生](#)(224)
- [糖尿病](#)(118)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#)(95)
- [インフルエンザ](#)(105)
- [肝臓・肝炎](#)(61)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#)(47)
- [脳・神経・精神・睡眠障害](#)(44)
- [整形外科・痛風・高尿酸血症](#)(30)
- [ワクチン](#)(53)

<< [アナフィラキシーの診断基準に対する備考](#) | [TOP](#) | [成人ワクチンスケジュール 2021年版](#) >>

2021年03月22日

## アストラゼネカのワクチンは3か月開けての2回接種

### アストラゼネカのワクチンは3か月開けての2回接種

Single-dose administration and the influence of the timing of the booster dose on immunogenicity and efficacy of ChAdOx1 nCoV-19 (AZD1222) vaccine: a pooled analysis of four randomised trials



アストラゼネカのワクチンに関しては以前のブログでも紹介しましたが、今回雑誌LANCETより追加の報告がありました。前回の論文内容とほぼ同じですが、2回目の接種時期の妥当性を明白に記載されていますので、その点を中心にブログしてみます。

- 1) ハイリスクの人に対して1回目の接種を行い、12週後に2回目の接種をする計画の下に本研究が組まれています。  
更に2回目の接種における免疫性と予防効果も調べました。  
英国のCOV001研究、英国のCOV002研究、ブラジルのCOV003研究、南アフリカのCOV005研究を纏めています。  
その要旨は前回のブログで紹介しましたが、2回接種後の14日以降での予防効果は66.7%です。しかも入院患者は一人も発生していません。(8597人)  
コントロール群では15人発生しています。(8581人)  
重度な副反応はアストラゼネカのワクチン群12,282人中108人(0.9%)に対してコントロール群では11,962人中127人(1.1%)生じています。  
(コントロール群は髄膜炎球菌群A、C、W、Y 結合型ワクチン、または生理食塩水を用いているためです。)  
1回目の接種での効果は76.0%ですが、これは流行初期のためと説明しています。
- 2) 1回目接種後の予防効果の低下は3か月後でも殆どありませんでした。  
抗体価は3か月後も維持されています。(0.66)  
2回接種の場合に間隔が3か月以上で予防効果が81.3%に対して、間隔が6週間と短い場合は55.1%と低下していました。  
抗体価を調べても、間隔が6週間以下の場合と比較して3か月以上では2倍多い結果です。  
ワクチンの予防効果は、間隔が6週から12週以上になるにつれて増加しています。

	Total cases	ChAdOx1 nCoV-19	Control	Vaccine efficacy (95% CI)*
<b>Pre-specified analyses</b>				
Cases more than 14 days after second dose				
Primary symptomatic COVID-19	332	84/957 (8.7%)	248/958 (25.9%)	66.7% (57.4 to 74.0)
Two standard doses	271	74/705 (10.5%)	197/709 (27.8%)	63.1% (54.0 to 71.7)
Low-dose plus standard dose	61	10/152 (6.6%)	51/150 (33.9%)	80.7% (65.1 to 90.0)
Asymptomatic or unknown infection (COV005 UK only)	530	53/405 (13.1%)	73/416 (17.5%)	23.2% (-9.9 to 45.0)
Two standard doses	83	43/393 (10.9%)	40/393 (10.2%)	2.0% (-10.7 to 14.7)
Low-dose plus standard dose	47	10/129 (7.7%)	37/129 (28.7%)	49.3% (24.4 to 69.3)
Any NABT positive	507	163/397 (41.3%)	344/391 (88.0%)	54.1% (44.7 to 63.8)
Two standard doses	399	133/208 (63.5%)	266/208 (127.9%)	49.5% (37.4 to 59.0)
Low-dose plus standard dose	117	79/129 (61.2%)	38/129 (29.5%)	67.4% (50.8 to 79.7)
<b>Exploratory analyses by prime-boost interval</b>				
Primary symptomatic COVID-19 cases more than 14 days after second dose				
Weeks since interval from standard dose				
<6 weeks	113	32/390 (8.2%)	79/396 (19.9%)	58.1% (49.9 to 65.9)
6-8 weeks	64	20/112 (17.9%)	44/109 (40.4%)	55.9% (37.9 to 70.4)
9-11 weeks	43	11/98 (11.3%)	32/98 (32.7%)	65.7% (28.0 to 81.7)
>12 weeks	53	8/129 (6.2%)	45/129 (34.9%)	81.3% (60.3 to 91.2)

この際、low doseの青は無視してよいです。赤のstandard doseにおける抗体価も間隔が長いほうが高い値です。

- 癌関係(11)
- 脂質異常(28)
- 甲状腺・副甲状腺(18)
- 婦人科(8)
- 泌尿器・腎臓・前立腺(38)
- 熱中症(7)
- 日記(19)
- その他(70)

過去ログ

- [2021年07月\(8\)](#)
- [2021年06月\(16\)](#)
- [2021年05月\(16\)](#)
- [2021年04月\(14\)](#)
- [2021年03月\(18\)](#)
- [2021年02月\(19\)](#)
- [2021年01月\(16\)](#)
- [2020年12月\(17\)](#)
- [2020年11月\(15\)](#)
- [2020年10月\(17\)](#)
- [2020年09月\(19\)](#)
- [2020年08月\(14\)](#)
- [2020年07月\(17\)](#)
- [2020年06月\(14\)](#)
- [2020年05月\(21\)](#)
- [2020年04月\(18\)](#)
- [2020年03月\(18\)](#)
- [2020年02月\(18\)](#)
- [2020年01月\(19\)](#)
- [2019年12月\(14\)](#)
- [2019年11月\(15\)](#)
- [2019年10月\(18\)](#)
- [2019年09月\(18\)](#)
- [2019年08月\(14\)](#)
- [2019年07月\(14\)](#)
- [2019年06月\(16\)](#)
- [2019年05月\(14\)](#)
- [2019年04月\(18\)](#)
- [2019年03月\(19\)](#)
- [2019年02月\(19\)](#)
- [2019年01月\(15\)](#)
- [2018年12月\(16\)](#)
- [2018年11月\(20\)](#)
- [2018年10月\(20\)](#)
- [2018年09月\(18\)](#)
- [2018年08月\(24\)](#)
- [2018年07月\(18\)](#)
- [2018年06月\(18\)](#)
- [2018年05月\(20\)](#)
- [2018年04月\(19\)](#)
- [2018年03月\(20\)](#)
- [2018年02月\(14\)](#)
- [2018年01月\(14\)](#)
- [2017年12月\(20\)](#)
- [2017年11月\(17\)](#)
- [2017年10月\(22\)](#)
- [2017年09月\(18\)](#)
- [2017年08月\(20\)](#)
- [2017年07月\(23\)](#)
- [2017年06月\(19\)](#)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)  
[RSS 2.0](#)

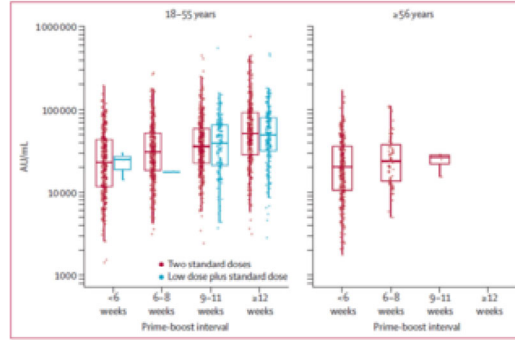


Figure 3: Anti-SARS-CoV-2 spike IgG responses by multiplex immunoassay at 28 days after the second dose in participants receiving two standard doses or low dose plus standard dose, by prime-boost interval (n=3337). Participants who were NAAT positive before the blood sample taken at day 28 were not included in the analyses. About 15% of samples from participants were analysed using this assay. The midlines of the boxes show medians and the outer bounds of the boxes show IQRs. Error bars show 1.5 × the IQR above or below the 75th or 25th percentile. Data are also in the appendix (p 9).

- 3) 1回目の接種において抗体価は徐々に低下しますが、社会全体としてのワクチン効果を考えますと2回目の接種は3か月以上開けるほうがメリットが大きいという結果です。3か月後のブースター効果によってその予防効果は81.3%となります。これはインフルエンザワクチンの場合と似た結果です。ワクチンが伝播の予防になるか、また軽症患者の予防効果も含めての結果は今後の課題だが、重症患者を含めた全体の効果は大いに期待される。もちろんマスクの着用、ディスタンスは肝要です。ワクチンの品不足の現状から、多くの人に1回目の接種を試みるべきと指摘しています。

私見)

65歳以下で基礎疾患のある方は、アストラゼネカのワクチンの選択が有力でしょうか。最近風当たりが強いようですが、...。直近で南アフリカ型の変異ウイルスは、アストラゼネカワクチンの効果が低下しているとの論文がNEJMに掲載されています。アブストラクしか読んでいないので、後日アストラゼネカのワクチン全体の懸念事項をブログしたいと思えます。

	英国変異株	南アフリカ変異株	ブラジル変異株
新規変異株	501Y.V1	501Y.V2	501Y.V3
ほかの名称	B.1.1.7 VOC-202012/01	B.1.351	B.1.1.28.1 P1、P2
最初の報告	英国、2020年12月	南アフリカ、2020年12月	ブラジル
日本での検出例(3月5日時点)	90例	16例	8例
変異	23 (アミノ酸変化: 17)	21	17 (アミノ酸変化: 11)
野生株と比較した感染性	43~90%増加 <sup>1)</sup>	50%増加することが示唆 <sup>2)</sup>	1.4~2.2倍増加 <sup>3)</sup>
野生株と比較した重症度	致死率35%増との報告がある <sup>4)</sup>	致死率は増加しない <sup>5)</sup> が、重症化例の報告がある <sup>6)</sup>	調査中
検出例の報告がある国	英国で優勢株に、WHOによると111カ国で報告*	南アフリカで優勢株に、WHOによる58の国々で報告*	WHOによると32カ国で報告*

\*2021年3月9日時点  
 表1 新型コロナウイルス変異株の性状その1 (編集部, 3月5日時点)

日経メディカルより

[Single-dose administration and the influence of the timing of the booster dose on](#)

[immunogenicity and efficacy of ChAdOx1 nCoV-19 \(AZD1222\) vaccine a pooled analysis of four randomised trials.pdf](#)

0

0

いいね!

ブックマーク

【ワクチンの最新記事】

[妊娠女性におけるmRNAコロナ・ワクチン...](#)  
[ファイザーのワクチンは3回接種が必要か?...](#)  
[ファイザーのワクチンによる心筋炎](#)  
[新型コロナ・ワクチン接種を希望される方へ...](#)  
[ファイザーワクチンの青少年における効果と...](#)

posted by 齋賀一 at 19:59 | [Comment\(1\)](#) | [ワクチン](#)

この記事へのコメント

アストラゼネカワクチンはハイリスクの人でも副反応があまりみられていないんですね。  
懸念事項は気になるところです！

Posted by at 2021年03月22日 23:37

コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

コメント:

確認する

書き込む

